

学校の取り組み／地域の木を利活用

森 づくりへの 馳走

ち

そう



木を削った時に出るカンナ屑である「かなば」。子どもたちは、この廃材となる部分を大事に活用したいと考えました。



シンガポール選手団を前に、堂々と英語でプレゼンテーションする子どもたち。



コサージュを手渡ししながら英語で話しかける子どもに、選手たちは笑顔でこたえます。



「みんな、すごく立派だったわ」と、涙目の土佐山学担当・福井佳織先生。



1枚1枚、カンナ屑に不織布を貼り、花びらの形に切ります。それを組み立てて1輪の花が完成。子どもたちの念願だった土佐山のヒノキを、コサージュの中心部に使用しました。

オリンピック選手にコサージュをあげたよ!

木の魅力を、世界へ発信

2019年7月28日、ホテル日航高知旭口イ্যালでおこなわれた、東京2020オリンピックシンガポール選手団歓迎レセプションにて、9年制の高知市立義務教育学校 土佐山学舎7年生13人の子どもたちの手から選手たちへ、プレゼントが手渡されました。それは、コサージュ作家の辻ゆかさんに教わりながら作成した『かなば(※)のコサージュ』でした。

実は、小学部卒業の日、自分たちでつくったコサージュをそれぞれの胸に飾った子どもたち。7年生になって、「このコサージュで、土佐山のみならず、高知県の木の魅力を発信したい」という思いを抱きました。日本はもとより、世界へ発信しよう!この日が、その第一歩になりました。

「私たちは、高知県土佐山の出身です。木の魅力を世界に発信したくて、このコサージュを作りました。ぜひシンガポールに持って帰って、高知県の木の素晴らしさをPRしてくださいませんか?」子どもたちによるプレゼンテーション後、会場には一斉に拍手が沸き起こりました。「自分たちが住んでいる土地にある木。その素晴らしさを広めたい」という子どもたちの思いは、日本から世界へ。木の魅力を知ることが、木を大切に使用する気持ちや育み、ひいては森林環境を守ることに繋がります。

あなたもぜひ、考えてみてください。森を守り、育てるために自分ができることって、何だろう? ※木材を薄くスライスしたもの。

県内のボランティア団体の紹介をはじめ、県民参加の森づくりを支援するHPがあります。

森・ヒト・こち応援ネット
<http://morihito.jp>

